

さっかーぶ

ボケ：ボ (●●)

ツッコミ：ツ (■■)

両方「どーも、■■と●●で[コンビ名]です」(挨拶をする)

ボ「最近ずっとモヤモヤしてて」

ツ「はい」

ボ「そののせいで、日によってお日様が出ている時間も違うなって思っちゃって」

ツ「そりゃ、曇りとかあるからね。日によってちがうでしょ」

ボ「それで、このモヤモヤっていうのが、高校の“さっかーぶ”的吉田ってヤツからね、同窓会の連絡が来て。行ったの」

ツ「はいはい、それで」

ボ「それで合流して。“あ！吉田く～ん！あらも～久しぶり～！元気してた～？”って話して」

ツ「おばちゃんみたいに」

ボ「そこにさ、佐藤くんも合流して。“あら奇遇～！”って。“昨日の特番見た～？”“見たわよ～！”って話してて」

ツ「お前、プライベートこんなおばちゃんなの。おばちゃんの井戸端すぎるって」

ボ「いや、でさ、吉田も佐藤も、俺も、そのとき全身茶色スーツだったのよ(笑)。これね(笑)、下品なんですけど、うん……」

ツ「下品でいくなよ！カレーな。せめてカレーだろ」

ボ「いやいや、吉田なんて髪を白染めしてたんだよ？」

ツ「なおさらだろ。全身茶色に髪が白なんて、ちょっとルーが多いなっていうカレーなだけじゃん」

ボ「じゃあ、吉田は百歩譲ってカレーでも、吉田はね(笑)、小太り、無精ひげも生やして、ハエも飛び交う様な奴。申し訳ないけど、正真正銘犬のうん……」

ツ「カレーな！絶対人に向かって“犬の……”とか言うな。“ハエが飛び交う”とかも言うなよ。ただの誹謗中傷だから」

ボ「じゃあなに、俺もカレーだって言いたいの」

ツ「まあ、そうだろ。認めろ。お前らカレー三人組だってこと」

ボ「はいはい、分かった分かった。話先進めるよ」

ツ「拗ねるなよ」

ボ「話し戻すと、吉田カレーと佐藤オムライスカレーと合流して、会場着いたの」

ツ「認めはしたのね」

ボ「それで席に座って、回り見て三人で“キャバクラって初めてだな”って」

ツ「同窓会で！？キャバクラ！？高校の集まりで？」

ボ「そこで、“それにしても、練習がきつかったよな。ドリブル、グラウンド周回とか”っていう話をして」

ツ「薄いね、内容が」

ボ「で(笑)、吉田はね“リフティングが一番きつい”って言いだして。だから、俺が“お前は

さっかーぶ

ボケ：ボ（●●）

ツッコミ：ツ（■■）

アホだな(笑)"って言って、履いてた靴で頭パチーンて叩いて。飲み物もこぼれちゃって、ゲラゲラ笑って。なんか、勝手に女の子が座ってきようとしたからそれも追い出して……」

ツ「お前、品がなさすぎるだろ！おばちゃん会話で集まるし、見た目いじってクソ言葉？初キャバクラの話題を“それでも”で逃がすし。暴力で、カレー三人組が使命拒否？ひどすぎる……」

ボ「そしたら、扉がバーンって開いて」

ツ「聞けよ俺の話」

ボ「そいつがね、高校のとき嫌なヤツで」

ツ「嫌なヤツ？」

ボ「そいつがね、金髪バチバチで、ピアスもして。茶色で」

ツ「カレーだ。軸がカレーだみんな」

ボ「そいつがね、“うい～ビビりの●●じゃ～ん”って。嫌じゃない？」

ツ「確かに。モヤモヤの原因コイツだろ」

ボ「“うい～1辛の吉田と10辛の佐藤じゃ～ん”って言いだして」

ツ「……あんま、ちびとノッポをを辛さで言わんのよ。1から10までグラデーションもないし」

ボ「で、こいつが吉田の悪口を言ってきたのよ。だから、俺アツくなっちゃって。取っ組み合いしちゃって。で、ボコボコにしちゃったのよ」

ツ「え？」

ボ「……これが事の顛末。僕は友情を守ることができた。それなのに、友情を守ったこの手はすごく痛くて、今でも思い出すんだ。本当にこれでよかったのかって……」

ツ「ぶっ飛ばすぞ！友情を盾にしたただの暴力野郎！モヤモヤしてるとかいうから、なんか誰かから嫌なことされたのかなって心配したら、自分の心の中かい。しかも暴力。もうそんなん、その三人でサッカーとかして発散すればいいじゃない。」

ボ「……え、いや俺サッカーできないよ？」

ツ「は？いや、サッカー部だろ。ドリブルとかリフティングとか言ってたじゃん」

ボ「いや、【作家】ね？【作家部】、作家の部」

ツ「は？じゃあ、なに？ドリブルって」

ボ「え、文字を書くことだよ。ドリブルって言うのよ！粋な言い方だよ」

ツ「お前、文字を書くことをドリブルって、運動部ぶるなよ！え、グラウンド周回は？」

ボ「文章を書く」

ツ「じゃあリフティングは？」

ボ「トメハネをしっかりして書く」

ツ「全部、文字練習じゃねえか！漢字ドリルかよ」

ボ「でも、グラウンド周回は文章を書くって言っても、回文のことだから」

さっかーぶ

ボケ：ボ (●●)

ツッコミ：ツ (■■)

ツ「うるせえよ。もっとこう、情緒とかを学べよ」

ボ「あ、確かに色々な小説を読んで、情緒を育てた方がかったかもしれない。言ってくれてありがとう。ちょっとスッキリした」

ツ「どこのモヤモヤを解決してるの。もういいよ」

両方「どうも、ありがとうございました」